

令和元年度 兵庫県立伊川谷高等学校 学校評価

教育方針	校訓「自主 協同」のもと、知・徳・体の調和のとれた生徒を育成するとともに、明るく活力に満ちた校風と地域に愛される学校づくりをめざす。
教育目標	「命」と「人権」を大切にし、夢に挑戦する生徒を育てる。
重点目標	①基礎・基本の定着を図り、生徒の主体性・創造性を育む教育を推進する。また、生徒に自己有用感とともに社会人として必要とされる基礎力、コミュニケーション能力を育み、社会的責任を果たせる生徒を育成する。 ②家庭・地域との連携を密にし、地域に愛される学校づくりを推進する。 ③教職員のコミュニケーションを密にし、「チーム伊川谷」により諸課題を積極的に解決する。

			* A 4点 B 3点 C 2点 D 1点							
領域	標語	分掌	重点 目標	評価の観点	評 価 項 目	No.	実 践 目 標	評価	改 善 方 策	分掌
総務・生徒指導・保健・進路	魅力発見！	総務	②	開かれた学校づくり	中学生や地域住民に本校の教育活動をPRする。	1	8月のオープンハイスクール、11月の学校説明会を通して、中学生や保護者に本校をPRする。	3.7	オープンハイスクールや学校説明会がより効果的なPRの場となるように、さらに改善をしていく。	総務
			①	防災教育の充実	防災教育の充実を図り、防災意識を高める。また本校の防災体制を再点検する。	2	避難訓練やシェイクアウト訓練を実施し、防災意識を高める。	3.5	生徒の防災意識を高める取り組みを工夫し、今後も継続して指導していく。	
			③	校内組織の円滑な運営	各部、学年、委員会の流れを把握し、学校組織としての効率性を高める。	3	学校組織の現状を把握し、縦断的な調整役となる。	3.3	各部・学年との連携をさらに深め、より効率的な学校運営を行う。	
			①	読書習慣の確立	図書館の有効利用を考え、本に親しむ習慣を確立させる。	4	図書館便り等を発行し、書物への興味を持たせる。	3.5	今後も継続して指導を行う。	
	未然防止・早期発見・早期対応	生徒指導	①	基本的生活習慣の確立	担任や、学年の先生とのコミュニケーションを大切にする。挨拶運動や遅刻指導などを通して、生徒達の規則正しい生活習慣の確立を目指す。	5	教務部と連携し、教職員の共通理解のもと、チャイムが鳴ると同時に授業に入れる指導体制を全学年で実施する。また、日々の遅刻に関しては、行事日などを重点的に様々な場面において、余裕のある行動を取らせる。反省文などを通して、振り返りさせ、規則正しい生活習慣の確立を意識させる。	3.5	授業へ入るための準備や、授業での集中力の持続などへとつながる行動を自覚させる。「よりよい行動とは何か」を自ら考える力を養わせる。日々の生活において自分の考え方が遅刻という結果として表れている場合は、改める点を確実に考えさせて、自ら行動し、約束を守るという結果に反映させていくように促す必要がある。	生徒指導
			②	規範意識の醸成	校則をきちんと理解して守らせる。頭髪・服装指導や交通安全指導などを通して、規範意識を高める。	6	各学年・各部の教職員の協力を得て、毎朝、生徒昇降口付近でのあいさつ運動を利用して、服装指導や交通安全指導を実施する。	3.5	近隣地域からの苦情が減っていき、褒められるケースが増えるように、様々な機会を通して、今後も粘り強く、継続して指導していく。	
			③	安心・安全な学校づくり	さまざまな機会を通じて、他者への敬愛の心を育み、自分の行動や言動の影響を考え、いじめのない学校を目指す。	7	いじめまたはいじめに準ずる行為が発生した場合、「いじめ対応チーム」が中心となって、職員が連携し、迅速かつ効果的に対応する。	3.5	いじめのない学校はないという前提で、今後もしじめを許さない学校を目指す。自分を大切に、他人に対しても同じ配慮を忘れない。自分の行動や言葉使いが与える影響を考えることができる人格の育成に努める。	
	Hearty care, Hearty support	保健	①	生徒の成長を目指す支援	生徒との相談を通して心のケアを行い、生徒の内面的な成長を支援する。	8	保健室での相談内容を担任・学年に伝え、個々の生徒の指導に活かせるようサポートする。必要に応じ、キャンパスカウンセラーとの教育相談とも連携する。	3.8	保健室と学年・担任、キャンパスカウンセラーとの連絡を密にし、必要な情報を共有化し個々の生徒に有効な指導が行えるようにする。	保健
			②	保健・安全	正しい生活習慣を身につけ、安全で健康的な生活が保持・増進できるように生徒を支援する。	9	学校医や家庭との連携を密にしながら生徒の健康保持・増進に留意する。個々の症状に応じた応急処置や保健指導・助言を行う。感染症について注意を喚起し、集団感染の予防に努める。	3.6	職員・生徒に対する熱中症予防講習会や救急法講習会をはじめとする保健関係の講習会を実施するとともに、毎月発行している保健だよりにおいてその季節・時期に応じた情報を提供し、生徒・保護者に健康に関する注意喚起を行う。	
			③	学校環境衛生	安全で健康的な学校生活が送れるように、学習環境の保全・管理を行う。	10	学校環境衛生検査を行い、必要に応じて迅速な改善を要請する。	3.6	学校医・学校薬剤師と連携を密にし、職員の協力を得て学習の場の良好な環境づくりを推進する。	
	夢にチャレンジ	進路指導	①	進路希望の実現	生徒一人ひとりの自己実現を目指した進路希望の実現をはかる。	11	昼休み等に進路指導室に待機して、生徒の質問に速やかに対応する。	3.6	校務・出張等の関係で難しい時もあるが、今後でもできるだけ継続して行っていくように努める。	進路指導
						12	就職・公務員・医療看護系など少数の希望生徒に対して、必要に応じた指導を行う。	3.6	今後も、指導内容の見直し・精選をはかりながら、継続して行っていく。	
			③	進路選択の支援	生徒が主体的に進路を選択・決定できるよう支援する。	13	3年間を見通した進路指導を行えるよう、部・学年間で情報交換を行い、研修会を開催する。	3.3	研修会を各学年1回、拡大部会を各学期に1回行っているが、学年の意見も聞きながら、内容の精選・充実に努めていきたい。	
			③	進路情報の提供	各部・委員会と連携しながら、有用な進路情報を生徒・教職員に提供する。	14	学年との連携を密にし、とくに第3学年の学年会議に毎回出席する。	3.7	今後も、継続して行っていく。	
						15	必要な資料および情報を提供し、進路関係資料の有効活用をはかる。また、進路通信を随時発行して情報を発信していく。	3.6	今後も、業務の見直し・精選をはかりながら、継続して行っていく。	

* A 4点 B 3点 C 2点 D 1点											
領域	標語	分掌	重点 目標	評価の観点	評 価 項 目	No.	実 践 目 標	評価	改 善 方 策	分掌	
教務・情報	新たな前進	教務・情報	①	基礎基本、個に応じた指導	目指す学校像に応じた教育課程を検討する。 また、生徒の現状に応じた授業展開（少人数授業、ティームティーチング）の工夫を行う。	16	生徒の興味・関心、進路に応じた教育課程を編成し、本校生徒に履修させるべき科目を設定する。	3.3	来年度からは新カリキュラムの先行実施がスタートすることもあり、新カリキュラムに向けた教育課程の検討を進めていく。	教務・情報	
						17	生徒の力に応じた基礎学力をつけるために少人数授業、習熟度別授業、ティームティーチングを実施する。	3.4	少人数授業、習熟度別授業、ティームティーチングの授業を整理し、より効果的な講座編成を目指す。		
			①	学力向上	シラバスを作成することで、各教科の目標や評価基準を明確にし、授業を年中公開する。 また、各教科における学力向上に向けた取り組みについて共通理解を図る。	18	教室環境整備、授業規律の確立の一助として、年中授業を公開するとともに、年間2回「伊川谷学び合い週間」を実施する。 また、研究授業、研究会を実施する。	3.5	教師が互いに授業を見て意見校交換することで、より質の高い授業が可能となる。また、研究授業、研究会については若手教員の育成という意味でも重要な取り組みと考えている。できるだけ負担のないように運営を工夫しながら来年度も実施していく。		
						19	シラバスを作成し教室に掲示し、各教科の目標や評価基準を提示する。また、生徒の興味・関心に応じた選択科目の履修を促す。	3.4	家庭学習の習慣化、基礎学力の向上を目指し、来年度も学力向上の取り組みを継続する予定。		
						20	総合的な探究の時間に関する目標設定や指導計画について検討する。	3.2	進路に対する意識を高め、2学年において学力向上の取り組みを継続する予定。		
			③	情報管理体制の確立	教職員のICT活用能力の向上を図る。	21	教職員の情報活用能力、情報セキュリティ能力及びモラル向上のため日常の相談体制を充実させる。	3.0	今年度の校内研修会は普通教室でのICT活用をテーマに1度だけ実施したが、来年度はさらに校務での情報活用、教育の情報化における著作権などもテーマに入れながら教職員のさらなるICT活用を目指すとともに、環境整備にも力を入れていきたい。		
						22	校務支援システムを運用し、出欠、成績管理、指導要録、調査書の作成を一括して行う環境を整える。	3.6	今年度は2学期からの校務支援システムの導入により、成績処理、出欠管理についてのデータ共有を進めることができた。来年度はさらに生徒情報の共有において校務支援システムのさらなる活用、各部署との連携を進めていきたい。		
			③	本校の広報	インターネットを活用して、本校のPRを図る。	23	本校のWebページに特色、学校行事、部活動等多様な情報を発信する。	3.2	ウェブサイトの情報が更新されていないという課題があるが、本来ウェブサイトで発信すべき情報の整理を行い、ウェブサイト、メール、コンテンツ配信ツールの適切な使い分けを行っていく。		
学年経営	身につける	1学年（44回生）	①	基礎学力の向上・ 基本的生活習慣の確立	基本的生活習慣を確立させ、規律ある生活を自ら送るようにさせ、学校生活のリズムに慣れるとともに授業に集中して取り組ませる。	24	一日の始まりである8:25の予鈴登校・朝の読書を大切に、落ち着いた状態で授業に取り組み基礎学力の向上と定着を目指す。	3.5	進路講演会や進路別ガイダンスを複数回行うことによって、各自の進路目標も定まりつつあるようであり、学習意欲にもそれが繁栄される生徒も徐々にではあるが増えてきたようである。来年度は自らの進路に向けて学習探究する時間をさらに増やせるよう指導していきたい。	1学年（44回生）	
			②	進路目標の発見と 実現に向けて	自らの可能性を信じ、将来への目標を持ち、それに向かって 努力する姿勢を育む。	25	日々の授業を大切にすると共に、自分の資質を見極める活動を積極的にを行い将来の目標を早期に定め、努力を継続して行う生徒を育てる。	3.4	心身の自己管理ができる生徒が多く家庭も協力的であるので欠席が一年間を通して少なく、学校での学習の継続がほぼ出来ているように感じる。今後の課題として進路実現を見据えた家庭学習の充実と資格試験へのチャレンジを勧め。目標達成のため自ら学び探究する行動が出来るよう指導していきたい。		
			③	心豊かな人間性の育成	心豊かな人間性の育成し、自らと他者を尊重しあう態度を養う。	26	日々の学校生活や種々の学校行事を積極的に取り組み、自主性や責任感・他者尊重・協同の精神を養い、集団の中で達成感・充実感を多く感じられるようにさせる。	3.4	概ね良好な人間関係が構築できたようであるが、一部に友人関係でトラブルがある。ほとんどが第三者の不確かな情報やお互いの理解の違いに振り回されているようである。面と向かってコミュニケーションを図ることを中心としてより良い関係を築くようにつなげていきたい。		
		2学年（43回生）	①	基礎学力の向上・ 総合的な学力の伸長	基礎学力の定着を目指し学校生活の中で総合的な生きる力の確立を目指す。	27	毎日の授業を大切にし小テストや定期テストをペースメーカーとして基礎学力を定着させる。そのうえでアドバンス学習へと進化させる。	3.4	最高学年の生徒であるとの自覚を高めるとともに進学就職に関わりなく社会に出る時期が近づいていることを踏まえた指導を行い、一層の規範意識と自主性の育成を涵養する。 また基本的生活習慣が確立できないと受験勉強にも取り組めないことを関連させて指導する。	2学年（43回生）	
			②	進路目標の実現に向けて	自らを顧みるとともに将来への確固たる目標を持ち、それに向かって真摯に努力する姿勢を育む。	28	教科・総合的な学習・LHRの関連を重視するなかで自ら調べ自ら考える力を身に着け、自分自身を大切に生きていくことのできる生徒を育てる。	3.4	人生における高校生活の重要性を認識し、厳しい現状を把握して、ベストの成果を目指して頑張り抜くことのできる生徒を育てる。		
			③	基本的生活習慣の確立・ 望ましい人間関係の構築 規範意識の醸成	「厳しさと優しさ」「自由と規律」「個性と社会性」の相反する項目のバランスをとりながら、規則正しい生活を送り学習を高校生活の中心に据えることのできる生徒を育てる。	29	規則正しい生活リズムで毎日過ごす。予習・復習を中心に家庭学習が習慣化し、自宅学習が当たり前になる。友人との触れ合いの中で望ましい人間関係作りに努め、やるべきこと、やってはいけないことの区別をはっきりとつける。	3.2	学校行事で得た優秀な成績や良好な評価を、指導につなげる。 最高学年の生徒として、出来て当たり前のことを確実にできるよう指導するとともに、自ら進んで出来るよう自覚を促す。		
		3学年（42回生）	①	基礎学力の向上と進路 実現に向けての学力の伸長	具体的な進路目標を持ち、その実現に向けて最大限の努力をする生徒を育てる。	30	学習への興味・関心を持ち、意欲を持って取り組むとともに、予習・復習を中心に家庭学習を習慣化させる。自宅学習を含めて週単位、学期単位での学習状況の振り返りを継続的に実施して客観的に自己評価させる。具体的な進路目標に向けての取り組みを考え、実践させる。	3.3	今年度は、1・2年次に比べて相対的に遅刻者数が増えた。特に2学期以降、進路が決定した生徒、受験期に入って受験勉強中心の生活になる生徒などが生活リズムを崩した。指導の重点を進路にシフトしたことも影響したかもしれない。進路指導と生活面の指導とのバランスを見直したい。	3学年（42回生）	
			②	自分とは何かを考え他者 を尊重し地域や社会 の中に於いて思いやり を持って行動できる精神 を育成	自分とは何かを考え学校生活や将来の社会生活の中で他者への思いやりある行動ができる生徒を育てる。	31	自信と自尊心を育て、自分自身の可能性をや自分を大切にする心を常に忘れず行動する。集団の中であって、自分自身のあり方、立場、役割を的確に判断し、自分と他者との関係のなかで、自分の言動が周囲に与える影響を意識させ自分に何ができるかを考えさせる。	3.4	学年集団としては、この3年間で順調に成長していることが感じられたが、個々の生徒の主体性や自立心を十分に伸ばせたとはいえない。生徒たちが自主的に考え、行動できる機会や場面を意図的に創り、生徒が達成感を体験できる計画や指導を考えていきたい。		
			③	規範意識と自主性の育成 および基本的生活習慣 を確立し社会人として 相応しい態度を身に 着ける。	規則正しい生活を基盤として、さまざまな場面で自主的に行動し責任ある社会人となり得る生徒を育てる。	32	規則正しい生活リズムで毎日過ごし、集団生活の中にあっては定められたさまざまな規則やルールを踏まえて自分がとるべき行動が意識される。事の善悪や、すべき事、してはいけない事を自分自身で考え、自らすすんで行動できるよう指導する。	3.3	進学希望者に向けては、継続的な補習や年末のセンター試験問題集（青バク）を用いての対策など、進路実現のための具体的な取り組みができたが、目的意識の高くない生徒や進学希望者以外への補習や面接指導など具体的な取り組みが十分とは言えなかった。学年としての指導プランを検討し、計画的に実践する必要がある。		